

せんがまち グランドデザイン

…あなただけの、宝ものが見つかる…
棚田と茶草場の里「せんがまち」

6 棚田カフェ・テラス

せんがまちの景色、音、味を楽しむ絶景ポイント。

立地、水道、
資金調達が重要

<現状の課題>
 ・資金、運営・調理加工ノウハウ不足
 ・女性部等地元協力者が必要

<実施内容>

- 1年 ・立地、水道計画
- 3年 ・資金調達計画、施工計画
 ・お茶会イベント
- 5年 ・建設開始
 ・スタッフ募集、お話し企画
 ・管理運営方法の策定

<出来上がる風景>

- ・季節ごとの花と棚田が一望でき、
 セルフで飲めるお茶のあるひと時。
- ・地元の人も、気軽に立ち寄れる。
- ・棚田に興味を持って訪れる人へのPRの場所。

7 事務局・体制整備

みんなで創るせんがまちに向けた体制。

人件費・委託費の
資金調達が重要

<現状の課題>
 ・事務局の業務過多、分担の困難 ・人員不足
 ・人件費不足 ・事務局の場所・機材不足

<実施内容>

- 1年 ・オーナー区画図作成
 ・イベント実施方法の改善
 ・スタッフ連絡体制の整備
 ・電子決済のテスト施行
- 3年 ・メンバー募集
 ・電子決済本導入
 ・寄付サポーター募集
 ・地元向け広報開始
- 5年 ・事務局機能の分担
 ・若手事務局スタッフ常駐
 ・広報、イベント協力ボランティア体制

<出来上がる風景>

- ・事務局、広報機能の充実、リスク分散。
- ・補助金だけに頼らない活動費の確保体制。

4 里山遊ベンチャー

草地、樹木を残し大人も子供もワクワク!

協力・協賛募集

<現状の課題>
 ・農作物が育たない ・人手のかかる管理が困難

<実施内容>

- 1年 ・植生調査、専門家の意見聴取
 ・草刈り、藪の整備
- 3年 ・崩れた個所の補修
 ・DIYメンバー募集
 ・道、作業小屋の整備
- 5年 ・手作り遊具、吊り橋、薪小屋制作
 ・キャンプ協力企業募集

<出来上がる風景>

- ・猪などの住処とならない程度のゆるやかな管理。
- ・木々を残しツリーハウス、秘密基地づくり。
- ・ハンモック、ピクニック、キャンプで思い思いの寛ぎ。
- ・キャンプ協力企業が見つければ用品レンタルや食材提供可能。

8 トイレ・施設整備

無いと困るもの。運営に必要な施設。

建設費・維持費
資金調達が重要

<現状の課題>
 ・車道を横断する危険 ・トイレ不足
 ・シャワー設備が無い ・駐車場、事務所不足
 ・資金・施工協力業者が必要

<実施内容>

- 1年 ・立地計画
- 5年 ・資金調達計画、施工計画

<出来上がる風景>

- ・活動中にすぐ利用できる清潔なトイレ(バイオトイレ)。
- ・農作業後に利用できるシャワー。
- ・ピジターセンター、スタッフがいつでも集まれる事務所。

方針

- 棚田と茶草場のある美しい里山風景を創る
- 多種多様な動植物との共生の場を守り伝える
- 人々(家族・地域・都市)の交流の機会を作る

理念

- 癒し、楽しさ、学びのある「みんなの故郷」を未来に繋ぐ
- 私たちの暮らし方を考え、行動できる人を育てる
- 住む・来る・関わる人にとっての「財産(たから)」となる

5 アグロフォレストリー

開発されすぎない自然との調和。

専門家の
協力が欲しい

<現状の課題>

- ・傾斜が急すぎて管理が困難。

<出来上がる風景>

- ・樹木と作物を組み合わせ、最小限の整備で野生化しすぎず
 開発されすぎない環境を維持する。

3 里山ファーム

景観樹木と緑肥作物(カバークロップ)による大地の再生、桃源郷づくり。

専門家の
協力が欲しい

<現状の課題>

- ・農作物が育たない ・人手のかかる管理が困難

<実施内容>

- 1年 ・緑肥作物の栽培 ・ため池の整備
 ・専門家アドバイス募集
- 3年 ・たい肥を使った試験作物栽培(花、果樹等)
 ・花畑協賛企業募集
 ・D・E区画間の道造成
- 5年 ・草刈リアルバイトの受け入れ
 ・ヤギの飼育

<出来上がる風景>

- ・棚田と茶草場のある風景を残し農業の循環・いきものの循環を
 体験できるせんがまち。
- ・最低限の草刈り等で管理のできる土地活用。

「せんがまち里山ファーム」の1年

- 1月 凧あげ、どんど焼き
- 2月 梅、桃、ニホンアカガエル
- 3月 桜、あぜ道アート、キャンプ
- 4月 菜の花、畦塗り、茶摘み茶づくり
- 5月 田植え、シュレーゲルアオガエル
- 6月 梅拾い、ホタル
- 7月 和紅茶づくり
- 8月 向日葵、ハチミツ
- 9月 ぶどう狩り
- 10月 稲刈り、栗拾い、秋の七草
- 11月 茶草場体験、カヤネズミの巣
- 12月 しめ縄、蕎麦打ち、餅つき
 冬マルシェ、星のイルミネーション

1 昔ながらの棚田

米づくりの文化、生態系、風景を守り、学び、伝える。

継続 & 深める

<現状の課題>

- ・畦の崩壊 ・地元メンバー高齢化 ・作業時間不足
- ・熟練インストラクター不足 ・洗い場・トイレ不足
- ・休憩場所・子どもの遊び場不足 ・地元市民が参加しづらい

<実施内容>

- 1年 ・運営チーム内の連絡方法の改善。
 ・各農作業の見直し。畦の整備を強化。
 ・農作業の動画・写真での記録。
 ・手押しポンプの洗い場整備。
- 3年 ・農作業、田んぼの学校の補助者育成。
 ・農具の手入れ・管理方法の整備。
 ・休憩場所の整備。
- 5年 ・農作業・イベント実施方法のマニュアル確立。
 (良い意味でのマニュアル化。以降更新は必要)。
 ・継続コアメンバーの自立的体制確立。(事務局と連携)。

<出来上がる風景>

- ・美しい畦の輪郭。水漏れしにくく管理性の良い田。
- ・子どもは水遊び・生き物探し、大人はベンチで寛ぎながら見守り。
- ・事務局と実働チームの協力体制。
- ・地元、近隣からの参加者増。

2 本気で米づくり

自分で食べるお米を自分で作る。棚田で作る。

R6年度
モニター実施

<現状の課題>

- ・指導員不足、指導方法・サービス体系の未確立
- ・貸し出し機器の不足

<実施内容>

- 1年 ・モニターとなるオーナーを募集。3組程度。
 …オーナー経験者。サービス体系確立に協力。
 ・農業指導・運営面での協力者、スタッフ募集。
 …地元農家のスタッフの支払い体制検討。
 ・中古機器の募集。
- 3年 ・「本気で米づくり」本格運営。3~5組。
 ・料金体系、スタッフの支払い体制決定。
 ・貸し出し機器の充実。農機具小屋の整備。
- 5年 ・上級者の育成
 ・運営協力者の育成

<出来上がる風景>

- ・広い面積の棚田の維持。
- ・半自立で耕作のできる人の育成。
- ・ある程度の機械化を取り入れながら無農薬での米づくり。